



「話せばわかる・聴けばわかる」

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉哲哉

昭和期の軍部クーデター5・15事件で、襲われた首相が暗殺の直前に発した言葉です。ところが、このとき「問答無用！」という言葉とともに首相は凶弾に倒れて政党政治は終焉を迎え、暗く不安な時代が始まるきっかけとなったのでした。

本来は「話し合えばお互いに理解できる」という意味で発せられたのですが、続く銃声によって「話しあっても役に立たない」と嘲笑うかのように聞こえるとしたら残念です。

戦争や紛争は「豊かになりたい」「強く大きくなりたい」「守りたい」など、人間の基本的な欲求から始まることが多いものです。しかし、利害が原因で対立が生じ、互いにいつまでも譲らず歩み寄ることもなく、解決をみなければ確執となって残ります。これは国際社会での覇権争いに限らず、小さな集団のなかの派閥争いなどにもみられます。

そもそも人はみんな違っているのです、考えも違って当然です。むしろ誰もが同じ考えでいるほうが不自然かも知れません。みなさんも、ある人やあることについて評価や判断が他の人と違っていても、だからと言ってあなたと異なる意見を持ったその人を全面的に否定したり、すぐに付き合うのをやめたりしないでしょ。

民主社会の原点は「自由に意見を述べ合う」「相互に人格を尊重する」ところにあります。これは前にも記した通り「相手を論破する」ことでも「言いなりになる」ことでもありません。議論の経緯や背景も理解したうえで、最も望ましい結論を求めて話し合うことなのです。

「話せばわかる」は「話さないとわからない」ということでもあります。「分かり合う」ためには「話を聴く」こと、「相手のことを知りその人格を尊重する」ことです。軍事力や経済力、取引上の地位や職場の上下関係など優位な条件を背景とした一方的な攻撃や侵攻、略奪や強要、いじめやハラスメントは極めて深刻な人権侵害です。国境の向こうに思いが及ばない、自分を守るために誰かが傷ついても意に介さない、「国家の繁栄」や「利益の拡大」など目的は間違っていなくても、手段が間違っていることを理解しない指導者も少なくありません。

多くの情報から真実を見極め、多角的な視点から分析し、正しく行動する、これこそが私たちに求められる「リテラシー」です。辞書によると「悟る」とは「物事の真の意味を知る」「明確に理解する」「隠されたことを察知する」とあります。たとえ統治や管理、指導する立場になっても、見ている、聞いている、知っているが、「つもり」で終わらないように心掛けたいものです。



一口メモ 復活祭(復活日)・イースターを待つ

春を告げるキリスト教の復活祭・イースターは、12月25日のクリスマスと異なり、月の満ち欠けによって日付が変わる移動祝日です。私たちの教会である聖公会では、イエスの受難に思いを寄せて復活日まで心静かに過ごすこの時期を大斎節(たいさいせつ)といい、イエスが荒野で断食をしたことから、信徒はこの後のイエスの受難に思いを寄せて、自らを振り返りながら飲食を控えるなどの節制をする習慣があります。

毎年2月に開かれる有名なブラジル・リオジャネイロのカーニバルは、40日にわたる大斎節を迎える直前に、人びとが思い切り弾けて楽しむイベントです。



終結を見ないまま侵攻から1年が過ぎました。

また、その他の地域にも紛争や災害で苦しむ人びとが多くいることを忘れずに祈りましょう。

ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、

わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。

またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。

明日を恐れるすべての人々に、

あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。

平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。

そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な

子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。

平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教

スティーブン・コットレル大主教



A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,
we pray for the people of Ukraine today.
We pray for peace and the laying down of weapons.
We pray for all those who fear for tomorrow,
that your Spirit of comfort would draw near to them.
We pray for those with power over war or peace,
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,
that you would hold and protect them.
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.
Amen.

Archbishop Justin Welby
Archbishop Stephen Cottrell



ウクライナのための祈り (カード) 日本聖公会東京教区のページへ

